



文部科学省後援 第3回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会 報告書

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

日程：2017年12月23日(土)、24日(日)

(1日目) 予選4試合、(2日目) 準々決勝、準決勝、決勝、キーノートレクチャー

会場：東京大学 生産技術研究所 An棟

主催：一般社団法人 パラメンタリーディベート人財育成協会 (PDA)

共催：東京大学生産技術研究所、公立大学法人 大阪府立大学

後援：文部科学省、朝日新聞社、朝日中高生新聞、一般社団法人 日本英語交流連盟、

一般社団法人 日本高校生パラメンタリーディベート連盟、全国高等学校長協会

協賛：東京大学生産技術研究所次世代育成オフィス (ONG)

助成：公益財団法人 日本財団

参加校：

(北海道) 札幌聖心女子学院高等学校、(青森県) 青森県立青森高等学校、青森県立弘前高等学校、八戸聖ウルスラ学院高等学校、(山形県) 山形県立山形東高等学校、(栃木県) 栃木県立宇都宮高等学校、栃木県立佐野高等学校、(群馬県) 群馬県立前橋高等学校、(埼玉県) 埼玉県立浦和高等学校、埼玉県立浦和第一女子高等学校、さいたま市立浦和高等学校、開智中学・高等学校、(千葉県) 翔凜高等学校、(東京都) 筑波大学附属駒場高等学校、東京都立日比谷高等学校、東京都立西高等学校、富士見高等学校、豊島岡女子学園中学高等学校、渋谷教育学園渋谷中学高等学校、晃華学園中学高等学校、獨協中学高等学校、安田学園高等学校、(神奈川県) 神奈川県立湘南高等学校、神奈川県立横浜翠嵐高等学校、神奈川県立厚木高等学校、神奈川県立柏陽高等学校、神奈川県立茅ヶ崎北稜高等学校、洗足高等学校、栄光学園高等学校、浅野高等学校、湘南白百合学園高等学校、(福井県) 福井県立藤島高等学校、(長野県) 長野県長野高等学校、長野県上田染谷高等学校、長野県松本県ヶ丘高等学校、長野県松本深志高等学校、(愛知県) 愛知県立旭丘高等学校、東海高等学校、清林館高等学校、(滋賀県) 滋賀県立彦根東高等学校、(京都府) 京都市立堀川高等学校、京都市立紫野高等学校、京都市立日吉ヶ丘高等学校、京都府立嵯峨野高等学校、(大阪府) 大阪教育大学附属高等学校平野校舎、大阪府立北野高等学校、大阪府立豊中高等学校、関西創価高等学校、(兵庫県) 神戸大学附属中等教育学校、(奈良県) 奈良県立奈良高等学校、(鳥取県) 鳥取県立鳥取東高等学校、(岡山県) 岡山高等学校、(山口県) 山口県立宇部高等学校、山口県立大津緑洋高等学校、(福岡県) 福岡県立城南高等学校、(熊本県) 熊本県立済々黉高等学校、熊本県立八代高等学校、真和高等学校、(宮崎県) 宮崎県立宮崎北高等学校



開催趣旨：

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)では、グローバルに活躍する人財育成の一手法として、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、プレゼンテーション力、コミュニケーション力などの複数の力を効果的に訓練可能な即興型英語ディベートを推進しています。

本大会では、即興型英語ディベートの普段の練習の成果を試し、全国の高校生と議論を交わすことで、さらなる成長・学習意欲を促すことを目的とします。授業での取り組み成果を発揮できるよう、形式は授業導入可能なフォーマットです。（参照：文部科学省助成事業 <http://englishdebate.org/debate/>）

論題（論題は、毎回ディベート開始 15 分前にはじめて発表されます）：

予選 1：Universities in Tokyo's 23 wards should limit the number of new students.

（東京 23 区内の大学は、学生の受入数を制限すべきである。）

予選 2：Reporting real names of crime victims should be prohibited.

（犯罪被害者の実名報道を禁止すべきである。）

予選 3：Grade-skipping should be introduced in compulsory education.

（義務教育での飛び級を導入すべきである。）

予選 4：Government should restrict the time spent on online games.

（国は、（PC 及びスマホの）オンラインゲームの利用時間を規制すべきである。）

準々決勝：Promoting studying abroad for Japanese students will save Japan.

（日本の生徒・学生に対する海外の留学促進は、日本を救う。）

準決勝：Automatic driving cars does more harm than good.

（自動運転車は、害よりも利益をもたらす。）

決勝：Development of AI weapons should be banned.

（AI 兵器の開発を禁止すべきだ。）

キーノートレクチャー講師：

- 株式会社カプコン 映像・新規事業副統括 世古 学 氏
- ギブズ外国法事務弁護士事務所外国法事務弁護士、米国ニューヨーク州弁護士、上智大学法学部教授 スティーブン・ギブンス 氏
- 東京大学生産技術研究所 准教授 中野 公彦 氏

※ 2 日目は、準々決勝に残らなかったチームや教員にも勉強の機会になればと、本大会で取り扱った論題について、専門家からの解説時間を設けました。

1 日目

開会式では、64 チームの参加高校が紹介されました。全国から二日間で 500 名を超える高校生・教員・見学者が集まりました。会場は満員スタートしました。大会でのルール諸注意、大会ジャッジまた 트레이ニーとして参加していただいた教員や大学生へ向けたジャッジ手順の確認が行われました。



開会式の様子（左：PDA 代表理事・中川智皓による挨拶・説明）

予選が開始されました。64 チームが一斉にディベートを行います。ついに大会が始まるという緊張感の中、論題が発表されます。予選 1 の論題は「東京 23 区内の大学は、学生の受入数を制限すべきである。」です。論題が発表されるや否や、一斉にホールを出てそれぞれのテーブルに向かいます。生徒たちは皆、真剣な表情でアイデアを絞り出しています。



準備時間中の様子

ラウンドの様子

予選 2 の論題は「犯罪被害者の実名報道を禁止すべきである。」です。Government も Opposition も実際の事例を元にいろいろな例を展開し、白熱した議論となりました。



第2ラウンドの様子
(大観衆を背に堂々としたスピーチ)



ジャッジのコメントを真剣に聞いています



ジャッジをしたラウンドについて、PDA
認定教育ジャッジ資格取得者が解説

2試合目と3試合目の間にレクチャーが行われました。KDDI 財団井上専務理事による高校生への激励、グローバル社会における遠隔システムの今後について述べられました。その後、PDA より、KDDI 財団ご支援にて開発された遠隔ディベートシステムの紹介、また文部科学省委託事業でも取り扱われる PDA 認定教育ジャッジの実技試験に関するオンライン操作の説明がなされました。最後に、昨年度の第2回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会の津波に関するキーノートレクチャーで大盛況であった大阪市立大学工学研究科河海工学分野 講師の中條氏によるレクチャーをいただきました。ディベートで議論を深めていく高校生たちに、真のエリートとはどうあるべきか、またその責任について考えが述べられました。ディベートスキル向上のみに焦点を当てがちな参加者に向けて、本質的な目標のあり方を考えさせられる時間となりました。



KDDI 財団 井上専務理事の挨拶



PDA 遠隔ディベートシステムの紹介



中條氏によるレクチャー



熱心に聞き入る生徒たち

予選3の論題は「義務教育での飛び級を導入すべきである。」です。つい先日まで自分たちも義務教育を受けていたからか、比較的取り組みやすい論題だったようです。どのような人が飛び級するのか、その影響はどういうものなのか等、様々な視点が飛び交いました。



第3ラウンドの様子



試合後は笑顔で握手

予選4の論題は「国は、(PC及びスマホの)オンラインゲームの利用時間を規制すべきである。」です。すっかり高校生には身近となったスマートフォンやPCでのオンラインゲームに関する話題。なぜ国が規制しないといけないのか、オンラインゲームを規制することでどんな影響が人々に及ぶのか、という観点でプレパレーションが進められました。本最終予選ラウンドはクローズ(ジャッジはその場で勝敗を公表しません。結果はコメントシートに記入され、翌日返却されます。)でした。結果は、明日までのお楽しみです。



最後の力を振り絞ってディベート!

第4ラウンドが終わった頃には、外は真っ暗となっていました。4ラウンド、全力を出し切った良い顔を見せ、1日目が終了しました。

最後のまとめの時間には、PDAによる事前のルール学習 e-learning の受講をされた生徒・教員の中から抽選で選出された5名の方にミニクリスマスプレゼントが手渡されました。事前 e-learning での学習された参加者の皆様のご協力で、より質の高い標準化されたディベートの試合を展開することができ、また当日の大会運営をスムーズに行うことができました。

そしてなんと、参加者が会場を出る直前にサンタが登場! 4ラウンド頑張った生徒・教員・ジャッジの皆さんへささやかなプレゼントが手渡されました。

Merry Christmas! See you next day!



サンタさん登場!

2日目

2日目は、準々決勝出場チームの発表（Break Announcement）から始まります。昨日の疲れを感じさせず、朝早くから生き活きとした顔の生徒の皆さんが次々と会場に集まってきました。

まずは、ジャッジブレイクの発表です。教員や社会人、大学生によるジャッジは、勝敗を出し、ディベーターである生徒にその理由と個人コメントを、論理的かつ教育的配慮を伴いながら述べます。ジャッジのコメントに対して、いかに生徒が納得できたか、また次への学習意欲を高めることができたかの観点で、生徒がジャッジに点数をつけます。平均点が高かった22名の先生方が発表されました。おめでとうございます。

次に、準々決勝に出場するチーム1位から8位までが発表されました。歓喜の声が上がりました。

予選結果

- 予選1位 栃木県立宇都宮高校
- 予選2位 渋谷教育学園渋谷高校
- 予選3位 豊島岡女子学園高校
- 予選4位 浅野高校
- 予選5位 筑波大学附属駒場高校
- 予選6位 さいたま市立浦和高校
- 予選7位 湘南白百合学園高校
- 予選8位 長野県松本県ヶ丘高校

準々決勝の論題は「日本の生徒・学生に対する海外の留学促進は、日本を救う。」です。出場者が準備をしている間、株式会社カプコン 映像・新規事業副統括 世古 学氏によるオンラインゲームの利用時間に関する規制（昨日の予選4の論題）について解説していただきました。



世古氏によるオンラインゲームに関する規制についてのキーノートレクチャー

準々決勝は4つの会場で行われました。自分たちも将来経験するかもしれない「留学」というテーマについて、「自分たちだったら…」という観点をふまえつつ議論をしている様子が印象的でした。



緊迫した準々決勝の様子

準々決勝終了後は、お昼休みです。午後からのキーノートレクチャー、準決勝・決勝に向けて頭も身体も休める生徒や、準々決勝の論題について友達と議論している生徒がいたりそれぞれの方法で束の間の休息を過ごしました。

昼食後、準決勝進出チームが発表されました。準決勝の論題は「自動運転車は、害よりも利益をもたらす。」です。最近急速に発展している自動運転についての論題が選ばれました。また、15分の準備時間の間、ギブンス外国法事務弁護士事務所外国法事務弁護士 スティーブン・ギブンス氏に準々決勝の論題であった留学に関するキーノートレクチャーを行っていただきました。レクチャーの中では、主に海外と日本の大学についての特徴の比較が行われ、上智大学法学部教授でもあるギブンス氏から高校生に向けて、こういう大学生活を過ごしてほしい、というメッセージがこめられた時間となりました。



ギブンス氏によるキーノートレクチャー



白熱する準決勝

準決勝のあとは、いよいよ決勝戦です。決勝の論題は「AI兵器の開発を禁止すべきだ。」です。最近、将棋や囲碁でも話題のAIについて、戦争という事象と絡めて議論する論題です。3位決定戦も同時に行われました。

また、決勝の準備時間の間に、東京大学 生産技術研究所 准教授の中野公彦氏に、準決勝で取り扱われた論題である自動運転車に関するレクチャーを行っていただきました。日本機械学会で行われた自動運転に関する模擬裁判の紹介やトロッコ問題の解説など、技術だけでなく、「倫理観がずっしり心に来た。」「色々考えさせられた。」などの感想が多く寄せられました。



中野准教授によるキーノートレクチャー

緊迫した決勝戦の様子

決勝戦、3位決定戦が終了し、表彰式が行われました。チーム賞、個人賞の授与が行われました。また、文部科学省・外務省後援 第3回PDA高校生パラメンタリーディベート世界交流大会（ワールドコンGRESS）への出場権を手に入れた学校も発表されました。

第3回PDA即興型英語ディベート全国大会結果

<チーム賞>

優勝：渋谷教育学園渋谷高校

準優勝：浅野高校

第3位：豊島岡女子学園高校

準決勝出場チーム（第4位）：栃木県立宇都宮高校

準々決勝出場チーム（ベスト8）：

- ・長野県松本県ヶ丘高校
- ・湘南白百合学園高校
- ・さいたま市立浦和高校
- ・筑波大学附属駒場高校

PDA では、ディベートの強いチーム作りをした学校だけではなく、一般生徒向けに、学校全体で即興型英語ディベートの授業導入された学校を称えます。授業導入賞は、提出された書類やカリキュラムから選ばれました。

<授業導入優秀賞>

- ・京都府立嵯峨野高校
- ・山口県立宇部高校
- ・群馬県立前橋高校

<授業導入賞>

- ・福岡県立城南高校
- ・筑波大学附属駒場高校
- ・大阪教育大学附属高校平野校舎
- ・長野県松本深志高校
- ・長野県上田染谷丘高校
- ・福井県立藤島高校
- ・熊本県立済々黉高校
- ・熊本県立八代高校
- ・滋賀県立彦根東高校
- ・渋谷教育学園渋谷高校
- ・札幌聖心女子学院高校
- ・岡山高校
- ・宮崎県立宮崎北高校
- ・埼玉県立浦和高校
- ・翔凩高校

<その他個人賞> (多数、個人名は略)

- ・ジャッジ賞、ベストディベーター賞、POI 賞

<教員ジャッジ最多出場賞>

- ・神奈川県立柏陽高校

以上の結果を受け、第3回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会への出場権は、以下の6校に進呈されました。

<1位~3位> 渋谷教育学園渋谷高校、浅野高校、豊島岡女子学園高校

<授業導入優秀賞> 京都府立嵯峨野高校、山口県立宇部高校、群馬県立前橋高校



優勝：渋谷教育学園渋谷高校



準優勝：浅野高校



3位：豊島岡女子高校



4位：栃木県立宇都宮高校



ベストジャッジ賞入賞者



PDA アドバイザー鈴木茂男氏による激励

アンケートの声 (抜粋)

【生徒の声】

1. 全体の感想
2. キーノートレクチャーについて
3. 論題について

1. 全体の感想

- ・学校とは全く違う環境で、関わりのなかった他校とディベートすることがとても新鮮だった。(札幌聖心女子・2年)
- ・自分の未熟さ、全国のレベルを知れた。(青森・1年)
- ・ふだん交流できない人と話せた。(弘前・2年)
- ・来年大学入学をかけて戦う相手たちがどんな人たちか、身をもって知ることができた。(山形東・2年)
- ・3分間という短い間に、大切なことを伝えるという経験ができた。(宇都宮・2年)
- ・PDAのレベルが高い試合が見ることができた。(宇都宮・1年)
- ・PDAの全国ははじめてで、世界の広さを知りました！饒舌な相手ディベーターに惚れてしまいました。(前橋・2年)
- ・すべてが楽しかった。(市立浦和・2年)
- ・今回の大会がとても楽しいと感じた理由は、全体的なレベルの高さにあると思います。スタッフ、ジャッジの方々の的確なアドバイスや、レベルの高く、興味深い、**motion** デイベート、**make friends** の精神など、素晴らしいものを体感することができました。(県立浦和・1年)
- ・他校の生徒さんの話し方や論の組み立て方を学べた。(浦和一女・1年)
- ・決勝に進むにつれどんどんレベルが高くなっていき、アカデミックな雰囲気がとても良かった。ルールもしっかりしていて、なめらかに進むことができてよかった。来年も出たい。(開智・生徒1年)
- ・自分の主張を伝えるだけではない、聞く人の立場に立ってスピーチができる人が増えると、さらに面白いものになると思います。(都立西・1年)
- ・英語をいかに上手くスピーチするだけでなく、論理的に批評する視点が重要だと肌で感じられたこと。(日比谷・1年)
- ・相手 **debaters** のテクニックを知れた！(富士見・1年)
- ・他校と、現代の問題などを英語で討論するという貴重な体験ができ、たくさん学べた。(独協・1年)
- ・ディベートの基礎を身につけることができた。(昇華・1年)
- ・強豪校とあたれたこと(豊島岡・2年)
- ・重要なポイントを簡単にまとめる練習ができた。(渋谷教育学園渋谷・2年)

- ・何もかもが刺激的で、濃厚な2日間をすごすことができました。(安田学園・2年)
- ・まずは、もう本当にめちゃくちゃたのしくて、けれど悔しいところもあるから、今後も挑戦していこうという決意を持てたこと。(湘南・2年)
- ・大きなスクリーンでLIVEされていたのがとても良かった。他校のディベートはとても刺激的なものだった(組み立て方が異なる)ので、とても良い機会であったと思った。(湘南・生徒1年)
- ・トップの方たちのディベートを聞いていると、話している内容も量も段違いで、それでまた分かりやすいというのが本当にすごいと思いました。(柏陽・2年)
- ・他校のハイレベルなディベートを聞いたこと。(栄光学園・2年)
- ・どんなに焦っていても堂々とスピーチをする能力を身につけられていればいいなと思った。(浅野・2年)
- ・高レベルの全国のディベートを通して、多くのことを学ぶことが出来て貴重な経験になりました。(厚木・2年)
- ・自分の良さを生かし、できていないところを潰して、来年またぜひ挑戦したい。(横浜翠嵐・1年)
- ・実践すること、見ることを通してより良いディベーターになれたと思う。楽しかったです。ありがとうございます！(湘南白百合・2年)
- ・進行がとてもスムーズで、良かった。時間の無駄がなくて、有意義な時間を過ごすことができた。(洗足学園・1年)
- ・最初はとても緊張したけど、やり終わった後に、相手チームの方やジャッジの方と交流ができたりして、充実していた。自分のためにもなって、とても充実した2日間でした。(上田染谷丘・2年)
- ・普段の部活でなら絶対に対戦できないような相手と試合ができたこと自体に喜びを覚えた。(松本深志・1年)
- ・大学で、英語で講義を受けているような感じがして、将来こんな風に学べたら素敵だなあという憧れ、目標にもなりました。(松本深志・1年)
- ・他校の方が本当にやさしくて、たくさんかかわらせていただきました。(藤島・1年)
- ・毎試合毎試合、ジャッジに素晴らしいコメントをいただくことで、成長し、思うことを存分に活かせる喜びを味わえた。(長野・2年)
- ・ディベートの後に他の高校との話し合いが出来た事。(清林館・2年)
- ・本当に濃い2日間で、負けた試合、勝った試合にかかわらず、多くのことを学ぶことが出来ました。学校内や京都内で行っていたディベートとは全然違い、とても刺激になりました。(嵯峨野・2年)
- ・本当に、良い経験。あと、東大に行きたいと思いました。いろんな意味でやる気になりました。(堀川・1年)

- ・多くの生徒が日本中から参加していて、いろんな生徒との交流を通し、自分の視野も拡がり、とても楽しかったです。(紫野・2年)
- ・学ぶことが多かったです。これから周りの人に追いつけるように英語の勉強をがんばってディベートに挑戦したいです。(日吉ヶ丘・2年)
- ・ディベート後のフィードバックはとても効果的だと思った。(大教大平野・2年)
- ・とてもいい経験です。こんな大会があることをもっと早く知りたかったです。(北野・2年)
- ・今まで自分がどれほどせまい世界にいたかがよくわかって、悔しい思いもたくさんして、とても良い経験が出来たと思います。(豊中・2年)
- ・他校の方々のディベート力や英語力がすばらしく、刺激になりました。(関西創価・3年)
- ・悔しかった。だけど東京の学校がどれだけハイレベルかを知ることができたので、良かったです。これからも英語力を伸ばしたいと思った。(神戸大附属・2年)
- ・日本、または世界で一流の政治家たちが頭をかかえている問題が多く、それらについて自分たちが考えるのはとても面白いと思った。(奈良・1年)
- ・脳にある一定の負担を与える、つまり話さなければいけない状態に自分を追い込むことで、少し成長を感じた。その点、自分が最も成長できる場であったと思う。(奈良・2年)
- ・ジャッジの人のコメントがもらえた所。具体的によかったところや、あともう一步だった所を指摘してくださったので、次に活用できそうだと思った。(鳥取東・2年)
- ・(レクチャーは)面白くて分かりやすく、勉強になった。日本と海外の大学比較の話は特に興味深かった。(岡山・2年)
- ・予選ラウンド最後のディベートで、湘南高校と今までで一番噛み合って楽しくベストを尽くせた試合ができた(宇部・2年)
- ・夏のキャンプで戦った相手と再会できてうれしかったです。ここまでお互いががんばってきてよかったと思いました。(城南・2年)
- ・高校生活最後のディベートがこの大会でできてよかったです。(濟々巒・2年)
- ・今回参加して、自分の英語力でできる範囲でのディベートが昨年よりも広がっていて、充実した2日間だった。ありがとうございました。(真和・生徒2年)
- ・昨年よりも質の高いディベートができて本当に良かったです。また、交流も深めることが、キーノートスピーカーの方々の話を聞いて、これからのつながりや糧になると思います。熊本では経験できないような素晴らしい経験ができました。(八代・生徒2年)
- ・学校などでは体験できない、レベルの高いディベートに混ざってすることで、今の自分に足りていない部分、参考にしたい部分などがよく分かった。(宮崎北・2年)

2. キーノートレクチャーについて

- ・ショートレクチャーでその道の第一人者の方から直接話を聞けるのは貴重な体験だった。(八戸聖ウルスラ・2年)
- ・ショートレクチャーがとても勉強になった。専門の方から、また様々な視点からお話していただけたので、自分の視野も広がった気がした。(佐野・2年)
- ・(ショートレクチャーは) 興味深かった。アメリカと日本の大学教育の違いをよく知れて面白かった。(開智・1年)
- ・レクチャーが試合後すぐに見れて知識を知識を得ることが出来た。上位の学校の英語力コミュニケーション力は見えていたのしかった。(翔凜・2年)
- ・特に自動運転のお話で、深く考えることの重要性を学べた。(茅ヶ崎北稜・2年)
- ・自動運転のレクチャーが特に論題と絡めてされていてとてもおもしろかった。(長野・2年)
- ・私たち高校生からは想像もつかないような現場での話を聞かせてもらえて大変勉強になった。ぜひアメリカの大学に行きたいと思った。(彦根東・2年)
- ・ディベートが終わったあとのアドバイスや専門家からのキーノートスピーチがとても面白かった。(真和・2年)

3. 論題について

- ・見たことのない論題がたくさん出てきてスリルもあったし、とても上手なディベーターを見れてとても勉強になった。(県ヶ丘・2年)
- ・ディベートの議題が自分たちでは予想もしなかったような議題だったので、今回この大会でそれらの問題について考え、また、他校からたくさんの意見やアイデアをもらえたことが1番の収穫です。(八代・2年)

【教員の声】

1. 全体の感想
2. キーノートレクチャーについて
3. 論題について
4. ジャッジのリフレクションコメントに対する生徒によるジャッジの評価制度
5. スコアのスマホ送信について

1. 全体の感想

- ・今回は観戦しかできませんでしたが、見るだけでも普段は味わうことのできないような刺激を味わうことができ楽しかったです。来年以降も面白い論題での大会を期待しています。(栄光・見学)
- ・2回目の参加です。生徒は「成長している」というコメントをくれたのですが、一緒に生徒とジャッジをし続けるためには、「自分も成長していきつづけなければ」という思いを強くしました。こういう機会をくださりありがとうございました。(嵯峨野・教員)
- ・全国の優秀な高校生のやる気に火をつける。とてもよい大会だと思います。(豊中・教員)
- ・私自身、生徒が流暢に英語を話している姿を見て刺激を受けました。もっと自分の英語力を上げたいと感ずることができました。大会に参加する機会をいただきましたことに深く感謝いたします。(日吉ヶ丘・教員)
- ・これからは英語スピーチ大会ではなく、英語ディベート大会の時代だと確信いたしました。(ウルスラ・教員)
- ・とても勉強になりました。この時期は飛行機、ホテルが高く迷ったのですが、来て本当によかったです。(沖縄県立宜野湾・教員)
- ・運営のスムーズさやスタッフの方々の対応も本当に素晴らしい。(前橋・教員)
- ・年々、すばらしくなっています。(翔凜・教員)
- ・とても教育的ですべての生徒たちが楽しめるような工夫、配慮がされていてありがたいです。ジャッジの勉強にもなります。(富士見・教員)
- ・他の学校の様子が分かり、このままだと教員として本当にいけないと感じた。(横浜翠嵐・教員)
- ・素晴らしい大会で、来年もまた参加したいと思います。(湘南白百合・教員)
- ・高校生のトップレベルを見れた。モーションがよかった。ジャッジを向上させるモチベーションを得た。(湘南・教員)
- ・全国の優秀で努力家の皆さんの白熱したディベートを拝見できるだけで、遠方からでも来て良かったと心から思えます。(紫野・教員)

- ・ディベートを通じて、生徒たちが大きく成長し、さらに社会に有用な人材へまた人生を切り開く人財へと成長していることを実感する。(関西創価・教員)
- ・ジャッジをさせてもらい、改めて難しさ(特に個人コメント)を感じた。(大教大平野・教員)
- ・今年は昨年よりも色々な学校に出会えて、この即興型英語ディベートの広がりを感じました。(大教大平野・教員)
- ・いろんな県から参加があるので、地域のかたよりがなく、全国のレベルを感じる事ができた。この大会に向けて生徒たちも練習してきたので、目標があるのがうれしい。(鳥取東・教員)
- ・うちの生徒たちが、最後まで真剣に臨み、「次はこうしよう」「学校に戻ったら…」と話していたことはうれしかったです。(札幌聖心・教員)
- ・全国の生徒たちの英語の運用能力を知り、また本校の生徒が必死に考え取り組む姿を見ることができた。(弘前・教員)
- ・目標とすべきレベルがわかった。(山形東・教員)
- ・何よりも生徒が多くを吸収し、この短い間で大きく成長したことを感じられました。(都立西・教員)
- ・全国レベルの対戦ができ、一戦毎に学ぶものがありました。対戦校、或いは関西大会参加校をはじめとして、生徒同士の交流は刺激が大いにありました。(彦根東・教員)
- ・初日午後からの開会は、遠方からでも前泊なしで来られるのはありがたいです。そして、タイトとはいえ、4試合もできることは、学んだことを次に活かせるため、生徒たちの達成感につながっていると思います。(彦根東・教員)
- ・授業で取り組んでいる即興型英語ディベートの延長線上にこのようなチャンスをいただき、生徒のモチベーションが上がった。(宮崎北・教員)
- ・PDA スタッフの皆様の献身的な活動、また心あたたまるおもてなしに常に感激しています。(宮崎北・教員)
- ・海外では一般的なディベートを日本の英語教育に導入し、若者の英語を使う力を養成しようという志に頭が下がります。(教員)

2. キーノートレクチャーについて

- ・とてもためになりました。(厚木・教員)
- ・Keynote lecture による論題解説は、今後パーラをする上でとてもよい知見や事例を与えてくださったと思います。(栄光・教員)
- ・有意義だった。東大志願者数にも影響するのでは？(堀川・教員)
- ・すばらしいレクチャーで、レクチャーだけでも聞く価値が高いです。(紫野・教員)
- ・たいへん有意義なものでした。短時間であるのでなおさら濃い内容で良かった。(山形東・教員)

- ・幅広い分野からの現場の声が聞けて良かったです。(清林館・教員)
- ・とても楽しかったです。特に3つ目の自動運転に関しては、生徒が普段考えないことまで紹介して下さったので、よい刺激になりました。(日吉ヶ丘・教員)
- ・レクチャーが魅力的で、パワポもわかりやすく内容が濃かった。(豊中・教員)
- ・どのレクチャーもとてもコンパクトであるにもかかわらず、とても興味深い指摘をされていて良かったです。(県立浦和・教員)

3. 論題について

- ・どれも高校生に考えてほしいものばかり。(前橋・教員)
- ・いつも社会で注目されている事項を取り入れながら、おもしろい(ディベートし甲斐のある)論題を用意していただき、ありがとうございます。(富士見・教員)
- ・よく考えられていると思います。(日比谷・教員)
- ・非常にタイムリーな論題ばかりで、教員としても日々意識してニュースを見なければならぬと改めて思いました。(栄光・教員)
- ・どの論題も世論を反映していて、我々にとって身近なものなのに「知らないことを知らない」ことを再認識させてくれるものでした。(嵯峨野・教員)
- ・論題に関連した講義はいずれも興味深く勉強になるものでした。学習意欲をかき立ててくれるものだったと思います。(獨協・教員)
- ・多角的視点の必要性和定義がポイントになる興味深い論題だと思いました。(晃華・教員)
- ・普段から時事問題に興味を持って考えねばならないことを実感させるよい論題ばかりで、内容の偏りもなく、よかったです。(豊中・教員)
- ・考えやすい論題(スタンダード)なものも多く、全国大会にふさわしいと思いました。(阿久比・教員)
- ・It was well balanced & arguments could be made from both sides. (Teacher)

4. ジャッジのリフレクションコメントに対する生徒によるジャッジの評価制度

- ・大変良いと思います。ジャッジの意識も高まります。(翔凛・教員)
- ・力のない自分には、とてもシビアなシステムだと思いました。(松本深志・教員)
- ・よいと思います。評価されるのは辛いところもありますが、ジャッジのレベルもあがると思います。(宇部・教員)
- ・つらいですが必要だと思います。生徒が適正な評価をしているのかには少々疑問が残りますが。(城南・教員)
- ・質の向上のため、とても良い事だと思います。(岡山・教員)
- ・妥当だと思います。教員サイドにおいては厳しいですが、教育的配慮に満ちたコメントをする等の意識が高まりそうです。(教員)

5. スコアのスマホ送信について

- ・とてもスムーズでした。重くなるのは仕方ありませんよね… (藤島・教員)
- ・ダウンロードで苦勞したが、つながると入力しやすかった。(堀川・教員)
- ・全体的には会を時間通りに運営するのに大変役立っていて素晴らしいと思います。(嵯峨野・教員)
- ・楽でした。すばらしいシステムだと思います。(紫野・教員)
- ・便利であった。(大教大平野・教員)
- ・使ってみる前は大変だと思っていたが、使いやすかった。(城南・教員)
- ・効率的なので、他の大会等でも導入してほしいです。(都立西・教員)

以上